



●**児童と市民調査員**
による抜け殻調査結果
 多くの皆さんのご協力により、次のような調査結果がまとめられました。
 ・抜け殻調査数 2640個
 (うち市民調査員分 1488個 学校関係調査員分 1152個)
 ・平地での羽へのマーキング調査 5906匹
 314匹
 ・山でのマーキング調査 314匹
 抜け殻が多かった6月20日から7月5日の2週間に羽化が集中していることが分かりました。

●**東邦大学生による調査**
 東邦大学4年生の菅原みわさん(千葉県)は、卒業研究に「転作と中干しが赤とんぼに与える影響」を選択し、その調査のため、6月から勝山市に住み込んでいます。
 菅原さんは、田んぼの中干しを5・6日行くと、とんぼの幼虫であるヤゴがほとんど死滅してしまうことを発表し、「羽化の多い時期を避けて中干しを行うことで、田んぼにいる他の生物も助かるのでは」と、農家に呼びかけました。

●**勝山市エコ環境都市推進活動表彰**

- ・環境保全事業等に取り組む個人および団体を表彰しました。被表彰者は次のとおりです。(敬称略)
- ・小林則夫
- ・猪野瀬まちづくり協議会
- ・滝波町第1町内会・滝波町壮年会
- ・遅羽町住民協議会
- ・アボットジャパン勝山事業所



赤とんぼフォーラム2012
 三室小学校児童の発表(村岡公民館)



パネルディスカッションの様子

赤とんぼと共に生きるプロジェクト2012

“日本の原風景”を受け継ぐ
 ～赤とんぼに会えるまち勝山を誇りに～

昨年からは勝山市で取り組んでいる「赤とんぼと共に生きるプロジェクト」の一環として、「赤とんぼフォーラム2012」を村岡公民館で開催しました。三室小学校児童や市民調査員として参加されたケイテックシーノ(株)からの活動報告と、山岸市長、石川県立大学上田哲行教授、福井県自然保護センター多田雅充所長、前園泰徳環境保全コーディネーターによるパネルディスカッションが行われました。

- 市内小学校の取り組み**
 今年は市内の8小学校が赤とんぼの調査に取り組んでいます。主な取り組みは次のとおりです。
 ・4月～5月 孵化の観察
 ・6月～7月 羽化の観察(羽化した抜け殻集め、羽へのマーキング)
 ・9月～10月 平地に帰ってきた赤とんぼの調査(マーキングされたトンボの捕獲)
 フォーラムでは、三室小学校の児童9人が今年の羽化調査の結果を報告し、「田んぼによって羽化数が違い、少し



市民大学講座受講者による調査風景

の環境の違いに敏感なのではないか」と発表しました。

●**市民調査員の活動**
 今年は、一般市民にも赤とんぼ調査への協力を呼びかけました。5月に約100人の応募があり、説明会が行われました。その後、自主的に調査に参加されました。

8月23日には、市民調査員どうしの情報交換会が行われ、現在はマーキングされた個体の確認調査と、赤とんぼの数を把握するための密度調査を継続して行っています。
 また、6月には市民大学講座の受講者による調査が行われ、7月には越前甲登山の参加者による調査も行われました。このように、今年の調査は広く市民が参加して行われています。

「勝山エコライフ」
 コラム
 第13回 赤とんぼが乱舞する



稲にとまるナツアカネ

9月13日の夕方、アキアカネの大群が山から勝山市街に降りてくるのを確認しました。それ以降、市内全域で赤とんぼが見られるようになっていきます。

9月29日の「赤とんぼフォーラム2012」の際、石川県立大学の上田哲行教授は、「赤とんぼと出会えるまち、かつやま」というキャッチコピーを提案されました。全国で赤とんぼの激減が続く中、勝山の「赤とんぼが舞飛ぶ姿」は、全国に誇れる宝になっているのです。



●**調査活動本格化**
 さて、今年8月に「三室小学校児童が放したマーク付きのアキアカネが、赤兎山山頂にて荒土小学校教諭により再捕獲された」というニュースは、記憶に新しいと思います。そして、山の上のいた彼らが、9月になってとうとう平地に降りてきました。いよいよ翅にマークの付いた赤とんぼの探索が本番を迎えます。マークの付いた赤とんぼを見つけたら、捕獲か撮影を試みてください。6月から7月に、勝山の平地でマークされた赤とんぼが、再び勝山で発見されれば、生まれ故郷に彼らが戻ってきたことを示す、日本初の記録になります。

ぜひともこの大発見を勝山市民の皆さんの手によって実現してください。
 ◎**宝物を探す**
 電線100mの間どのくらい赤とんぼがとまっているのかを数える調査を開始し



整列するアキアカネ

勝山では、さらさらと翅を輝かせながら赤とんぼが乱舞する様子や、電線に何匹もとまっている様子があちこちで見られます。

10月から夕方5時に流れる音楽が童謡「赤とんぼ」に変わりました。このメロディーが流れてきたら、空を見上げて「赤とんぼという宝物」を満喫してみませんか？